

第 13 回前橋市産業振興ビジョン協議会 議事録

産業振興ビジョン協議会	令和 1 年 8 月 2 6 日 (月) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	前橋市役所 1 1 階 北会議室
出席者	委員 足立委員、阿部委員、五十嵐委員、今村委員、植木委員、鮎澤委員、沖山委員、加藤委員、狩野委員、唐沢委員、中島委員、橋本委員、向田委員、吉澤委員、吉田委員、宮崎委員、西巻委員 事務局 関産業経済部長、木村産業政策課長、茂木課長補佐、粕川課長補佐、関口課長補佐、にぎわい商業課 細井課長補佐	
欠席者	鈴木委員、茂木委員、増田委員	
議題	1 開会 2 委員長挨拶 3 議題 (1) 産業振興ビジョンに基づく各種施策の進捗状況について (2) 次期（令和 2 年度版）産業振興ビジョンについて (3) その他 4 閉会	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・協議会名簿 ・資料 前橋市産業振興ビジョン各施策の進捗状況 ・資料 前橋市産業振興ビジョン個別事業の概要 ・資料 第 12 回産業振興ビジョン協議会における発言に対する本市対応内容 ・資料 令和 2 年度版産業振興ビジョン策定に係る業務予定表 ・資料 前橋市産業実態等アンケート ・資料 統計データ資料集 	
会議内容	1 開会 (木村課長) 皆さん、こんにちは。それでは予定の時刻になりました。ただ今より第 13 回前橋市産業振興ビジョン協議会を始めたいと思います。皆さま方にはご多忙の中、ご出席をいただきまして大変ありがとうございます。	
	2 委員長挨拶 (木村課長) それでは、協議会の開会にあたりまして、吉田委員長さんからごあいさつをいただきたいと思っています。お願いいたします。	
	(吉田委員長) おはようございます。よろしく願いいたします。なお、この会議は前回 3 月に行いましたので、半年ぶりの会議になりますけれども、今日は委員の方で 5 人の方が交代ということになりますので、これから自己紹介ということになりますが、よろしく願いいたします。今日は、3 年間	

の今までのビジョンが終わりますので、来年にかけての新しいビジョンの策定ということになりますので、活発なご意見、よろしくお願いします。

(木村課長)

ありがとうございました。先ほど委員長からのご発言にもありましたように、今回から新たに委員になられた方がいらっしゃいます。ここで紹介をさせていただきたいと思います。

公益財団法人群馬県産業支援機構理事長 向田忠正様と、一般社団法人群馬県銀行協会専務理事 足立守男様、公立大学法人前橋工科大学副学長 今村一之様、そして、前橋東部商工会副会長 吉澤和男様の4名の方々です。それでは、新たに委員になられた方々、お一方ずつごあいさつをいただきたいと思います。初めに向田委員さん、よろしくお願いいたします。

(自己紹介：向田委員、足立委員、今村委員、吉澤委員)

(木村課長)

ありがとうございました。新しく委員になられた方々、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、冒頭にも申し上げましたように、本日の協議会は今年度になって初めての協議会です。今年度4月に事務局におきましても人事異動がありましたので、異動となった職員、自己紹介をさせていただきたいと思います。

(自己紹介：関部長、関口課長補佐)

(木村課長)

本日の協議会は第13回ということでありますけれども、前回の第12回までこの協議会の副委員長を務められていらっしゃいました根岸委員さんですけれども、この6月に選出母体であります群馬県産業支援機構を退任されました。このことから、新たに副委員長を選任したいと思えます。協議会設置要綱によりますと、委員の互選により定めるといふふうにされておりますが、どうでしょうか、いかがいたしましょうか。もし事務局のほうにお任せいただけるようであれば、事務局案を提示させていただきたいと思えます。

(一同)

一任します。

(木村課長)

ありがとうございます。それでは事務局といたしましては、根岸委員さんの後任でいらっしゃいます向田委員さんに副委員長をお願いできればと考えておりますが、皆さま、いかがでしょうか。

ご承認をいただきましたので、向田委員さんに副委員長をお願いしたいと存じます。向田委員さん、どうぞよろしくお願いいたします。じゃあお席のほうへ移動をお願いします。

それでは、お手元の次第に基づきまして、早速ですけれども、議事に入りたいと思えます。議事につきましては、協議会設置要綱の規定に基づきまして、吉田委員長さんに議長になっていただき、進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(吉田委員長)

ただ今司会者が申し上げましたように議長の席につかさせていただきます。早速ですけれども議題に入りたいと思います。(1)の産業振興ビジョンに基づく各種施策進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

(関口課長補佐)

前橋市産業振興ビジョン各施策の進捗状況について資料①に基づき説明

(茂木室長)

企業誘致政策「彩の国ビジネスアリーナ」について説明

(関口課長補佐)

前橋市産業振興ビジョン各施策の進捗状況について資料①に基づき説明

令和2年度版産業ビジョンについて、委託業者の紹介をさせていただけたらと思います。では、群馬経済研究所さん、よろしくお願ひいたします。

(群馬経済研究所)

おはようございます。ご紹介いただきました群馬経済研究所でございます。手前どもを選定していただきましたのは、地元のシンクタンクとして地元経済に理解度が深い、といったところを見ていただいたものと考えております。皆さまのご期待に沿えますよう、全力を挙げていきたいと思ひます。業務を進める中で至らぬところがあると思ひますので、今後ともご指導ご鞭撻いただければと思ひます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

統計データ等から見た前橋市の現在の経済状況について説明

(吉田委員長)

これについて何か意見がありましたらよろしくお願ひします。どなたか、何でも結構ですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(狩野委員)

富士見商工会の狩野と申します。我々商工会というのは、小規模事業者支援団体として特化した経済団体として、国のほうでも先般、小規模事業振興基本法という小規模事業者向けだけの法律をつくりました。この委員会に私も長く参加していて、当初は、中小零細企業という形の一括りだったものを、小規模事業者をあえて分けて支援をしていくというのが国から始まっております。それに向けた補助金、持続化補助金等の補助金事業もあります。先般、前橋市でも少額ですが、そういう支援をしていただけるような方策も出てきました。

こういうアンケートを取る中で、私もこのアンケート票を見ながら自分なりにやってみましたが、ほとんど半分以下のところしか該当しない。だから小規模事業者という非常に分母の多い、数の多いところに向けたアンケートをするのであれば、やはりその部分から何を引き出してこの産業振興ビジョンのほうに反映していくかという切り口が必要だと思ひますので、もしこのアンケート等をこのまま全員に配ったとしても、おそらく小規模事業者の実態把握には十分行きつかないんじゃないかと思ひますので、もしそういうのが再考できるようでしたら、小規模事業者目線のきちっとしたものを、ここでアンケート調査で実数と実態を見たほうが、今後3年間に

向けて非常に内容のあるアンケートが取れるかと思っておりますので、私としての意見として再考できればなと思っております。よろしくお願ひします。

(吉田委員長)

それについて返事がありますか。

(群馬経済研究所)

ご指摘ありがとうございます。今回、このアンケートと併せまして、このアンケートに基づいて、ヒアリングを行う予定がございます。例えば今ご指摘のありました小規模事業者の方に1時間から2時間ぐらいお話を聞こうかなと思ひます。このアンケートは当然、その回答の内容を数字でグラフに表す形になりますが、その中からイエスと答えているけれども、実際ノーに近いイエスなのか、ノーと答えているけど実際イエスに近いものなのか、その辺をヒアリングで深掘りしてみたいと思ひておひます。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございます。まだまだ時間がありますので、何でも結構ですので、何か発言、よろしくお願ひします。

(西巻委員)

アンケートの件で1点お願ひしたいというか。私は仕事上、いろんな事業者さん、いろんな産業形態の方々とお会ひしているんですが、こういうアンケートのときに必ず質問が来るのは、「うち個人事業者で、所得税なんだけど、資本金とかこんなのを聞かれてるレベルでは回答しても意味がないんじゃないの」というご意見、結構来るんですけども、個人事業者の方はこの辺は書かなくてもいいですよとか、そういったところをちょっと明示しておいていただければ、そういう疎外感的なアンケートにはならないんじゃないかなということ、ちょっと片隅に入れておいていただければなと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(吉田委員長)

それについての返答はありますか。

(群馬経済研究所)

ご指摘ありがとうございます。具体的な部分はアンケートのどの部分になりますでしょうか。

(西巻委員)

この中には、資本金と書いてあって、元入金というふうにちゃんと書いてありますが、個人事業者の中には損益計算書だけを確定申告に提出している方も中にはいますので、そういった方は0円としか書けないような状態になるわけですね。なので、もうどういった申告形態なのかっていうのを聞いていただけたほうが、回答できない設問だということがはっきりわかる部分もあるのかなと。

(群馬経済研究所)

そうすれば、アンケートのご記入にあたってのお願いとか、そういうところでフォローしてい

きたいかなと思います。

(西巻委員)

そうしていただけると助かります。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございます。どなたでも結構ですので、よろしく願いいたします。はい、どうぞ。今村さん。

(今村委員)

資料の事業所数、従業者数の推移というところと、販売額の推移というところですが、事業所と従業者の数はおおむねほとんどの事業で落ちているのに対して、売上が上がっているものもあるということで、ご説明では、この人が減っているのに売上のほうが上がっているのは、ICT等、新しい技術の進歩によってその辺の人不足が補われて売上が上がっているというご説明だったんですけども、その説明が全てではないような気がします。具体的にはこの販売推移額の推移で上昇している原因というのはどのように分析されていますか。

(群馬経済研究所)

ありがとうございます。データのところからまだそこまでは追ってないんですけども、印象としますと、ショッピングモールとかの大型のところはやっぱり増えているというところが一つあります。それと、細かいところで追えない部分もありますが、通販をやっている方とか、そういうところが入ってきている可能性もあるかと思います。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございます。どなたか何かありますか？

(向田委員)

アンケートですけども、今後3年間の景況の見通しを書けというのがありますが、たぶん中小、特に小規模の企業の方にとっては非常に難しいだろうと。自分のところがどうのこうのよりも、経済情勢で大きく変わってくる話なので、果たして聞く意味があるのかなというのが1点でございます。それから、事業活動における問題と展望等についてというので、現在経営上抱えている問題や課題、これがたぶん市の政策に直結してくるだろうと思うんですが、その中に、事業用地の話があまり明確に出てきていないので、そこは入れたほうがいいのかなど。事業所の規模拡大、移転ぐらいの言い方でしかやってないですから、事業用地が不足しているのかしてないのか。しているというところがあれば、それこそ早めに手当てをしないと、みんな前橋市から逃げていっちゃいますので、それはぜひ聞いてください。その2点です。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございます。何かありますか。

(群馬経済研究所)

ご指摘ありがとうございます。今後3年間を考えたとき、景気の先行きはなかなかプロでも考えづらいところですけども、結局産業振興ビジョンが3年間という期間の中で、各企業さん、事

業者さんが先行きをどう見ているのかなというのを聞きたいと考えております。それと、もう一つご指摘いただきました事業活動における問題、展望のところに、「事業用地」の件は入れていきたいと思います。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございました。産業団地ですね、ぜひつくってもらわないと、新しい企業はこないで、そのところも、市に対してもアンケートを取ってもらいたいと思います。そのほかに何かありましたら、よろしくお願いします。

(阿部委員)

保証協会の阿部と申します。アンケートにもありますが、前橋だけではなく、県にしても、各行政にしても、事業承継が喫緊の課題というのは認識していますが、どこに相談していいかわからないと中小企業の方は悩んでおります。私も保証協会に来るケースもありますが、ほとんどは民間の金融機関に行くだろうと思うんですね。それすらできないところもありますので、せっかくの機会ですので、そういった相談場所はあるのか、あるならばどういふところを希望するかですか、こういったところも入れてもらってもよろしいのかなというふうに思っております。

(吉田委員長)

返事はいいですか、はい。

(群馬経済研究所)

ありがとうございます。そうすれば、相談する場所がわからないとか、例えば、さっき副委員長から出ました事業活動の問題とか展望、そういうところに絡めても大丈夫でしょうか。わかりました。設問と回答をちょっと工夫して項目を入れていきたいと思います。ありがとうございます。

(吉田委員長)

ほかに何か。足立さん、ありますか？ 何かあったら一つよろしくお願いします。

(足立委員)

私も金融機関出身なものですから気になる点がありまして、またアンケートのことで申し訳ないですが、「資金調達等についてお尋ねします」とあるんですけども、昨今、新聞ですとか、ニュースですとか、いろんな雑誌を見ていると、新たな資金調達法というんですかね、例えばクラウドファンディングですとか、簡単にできるような資金集めみたいな、こういったところについて、ニーズがあるでしょうかとか、逆に言うと、都市銀行、地方銀行、信金信組ってありますけれども、それだけではないような調達に対するニーズも持っているんでしょうかというような言葉もいかがでしょう。新たな調達、汎用的な、簡便な調達ということで、中小零細スタートアップ企業が考えていることの中では有意義なことだと思いますので、もし可能であればそういったところもいかがでしょうかと考えます。

(群馬経済研究所)

そうすると、「資金調達についてお尋ねします」のところに、ちょうどスペースがありますので、下のところにそのクラウドファンディングとか、最近のインターネットを使った資金調達とか、そういったのも含めて、項目を一つ入れてみたいと思います。ありがとうございました。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございます。続いて五十嵐さんは何かありますか。

(五十嵐委員)

いろいろお伺いした中で、やはり前橋市も全国、国と同じように高齢者の人口が増えているわけです。それで前橋市の医療関係と社会福祉関係の雇用はすごく多いですけども、稼ぐ力というのがやはり少ないような気がするんです。稼ぐ力というのがどこまでのことを言っているのかちょっと把握できないですけども、やはり働く、まあ医療のほうは割と賃金のほうが高いと思いますが、私が携わっている福祉企業のほうは、どうしても職員さんの処遇改善というのが、国のほうではしていただけているんですけども、なかなか市単位ではそういったことを考えてくれているのかなというところが、どの資料を見てもないような気がしたので、その辺を、少しずつでもいいですから、社会福祉のほうに少し回していただけるような形にいただけるとありがたいかなということがあります。

(吉田委員長)

ありがとうございます。返事がありますか、いいですか。

(群馬経済研究所)

ご指摘ありがとうございます。ご指摘いただきました雇用力という意味では、「社会保険・社会福祉・介護事業」は雇用力が6.11で順位が3位、と非常に高い産業ですが、稼ぐ力のところでは入っていないという形でございます。しかし、雇用力で十分前橋市の産業界に貢献していると思われまますので、それが報われるような産業支援策というのをまた、これは今後新しい産業ビジョンをつくる中で考えていくことかと思いますが、またいろいろ委員の皆さまとご相談していきたいと思えます。ありがとうございます。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございます。順番でいくと、あと植木さん、何かありますか。

(植木委員)

はい、特にないです。ありがとうございます。

(吉田委員長)

では鮎澤さん、何かあったらよろしくお願いします。

(鮎澤委員)

特にはありませんけれども、感想というか、関部長のほうから冒頭に、前橋らしさというのをおっしゃっていて、これはでもなかなか大変だなというふうに考えていて、自分が市の職員だとすれば、何をもちて前橋らしさというのをPRしていくのかっていうのを、かなりちょっと悩んじゃうなというふうに思っています。ちょっと厳しい現状の資料を見させていただいたんですけど、いずれにせよ、ちょっと市のほうでやらなきゃいけないことと、私ども民間で前橋らしさというのをつくっていく必要というのをちょっと分けて考えなきゃいけないのかなというところが1点ですね。いただいた資料の現状認識で、やはり求人難というのが一番最初にきているというところ

ろで、お話にもありましたけど、前橋生まれ、育ちの方をいかに定着させるかということが当然第一に来ると思います。親が、あるいはお子さんが小さいうちから、私どものような、いわゆるB to B企業についても見ていただくようなプログラムをつくる、そういったところに市のご支援をいただく余地があるのかもしれない。

それ以外にも、やはり今後はもう都市間の競争、毎回申し上げているような話ですけど、もう友達でも、前橋の人が東京に行って、今度福岡に住むとかですね、要は「前橋に帰らない」という人たちも実際いるような中で、その辺の魅力をいかにPRするかです。医療の安心安全であるとか、住みやすいというのは私ももう十数年住んで間違いなことだと思いますので、その辺のPRで、いかにそういう人たちを前橋に連れてくる必要があります。外国人も含めて、前橋で年に600人も人口が減っていく中で競争に勝っていくという視点もちょっと必要なかなと思いますながら話を伺いました。

前回もちょっとプロフェッショナル人材のお話で、今日は向田理事長もいらっしゃっていますが、まあそういう東京で鍛え上げられた一定の年齢の方々も前橋に戻って来ていただくような仕組みというのも、引き続き窓口として産業支援機構さんにやっていただけるということなので、その辺はほんと気合いを入れてやっていかないと、この数字のデータのとおりになりかねないという、危機感を持ちながらお話を伺ったところです。感想だけになります、以上です。

(吉田委員長)

ありがとうございました。続いて沖山さん、何かありますか。じゃあ加藤さん。

(加藤委員)

アンケート対象で、企業さんにということはわかるんですが、以前、吉田委員長が娘さんのお話をされたこともあると思いますけれども、実際に、例えば企業の経営者のご子息なりが「就職先、どこですか」→「前橋以外です」と答えたら、「なぜですか」なんていうようなことがわかるようなアンケートがあったらいいなと単純に思いました。就職する側が、なぜ前橋に就職しなかったのかというような、何らかの形の情報が取れたらいいかなと思った次第です。

(吉田委員長)

ありがとうございました。続いて、唐沢さん、ありますか？

(唐沢委員)

はい。特にというわけではないですが、やはり私も同じ意見というか、先ほど五十嵐委員がおっしゃった、雇用力と稼ぐ力ですかね、そこの部分の乖離がすごくあるなというのを感じています。雇用力というのは医療福祉関係ですけども、実際に稼ぐ力となると、その上位に全く入ってこないという。つまり収入が低いから、なかなかそちらの業界にいかないというの、これも事実だと思いますので、その辺も含め、今後産業という意味ではどういうふう施策を打っていくところかなというふうを感じています。

ご説明の最後のほうにもありましたけど、少ない働き手の確保で、どう産業を支援していくかということでも、労働人口が少なくなるというのは、もうずっと前回会議でも出ていますので、そこにおける人材育成ですね。おそらくこのアンケートでも人材育成に関する課題というのを、結構企業さんでも持っているのではないかなと思いますので、その部分で、じゃあ実際に育成に関するノウハウがあるのかとかですね、どんな施策を打っているのかということも一つ大事なかなというふう思います。これだけ雇用率、就職の状況がいいのにもかかわらず、離職率というの

はほとんど変わってないですよ。俗に言う七五三現象と言われるものですが、そこはあまり変化していないので、その辺も含め、会社が社員の定着とか人材育成を今後どうやっていくべきかが知れるといいかなと感じております。以上です。

(吉田委員長)

ありがとうございました。返事、特にないですか、いいですか。

(群馬経済研究所)

ご指摘ありがとうございます。やっぱり若年の方が辞めているというのは、手前どもでも問題だと思っていて、前回のアンケートに加えて、こちらのアンケートで35歳未満の若年者の退職理由を教えてくださいというのを入れまして、当然、今までいろいろ産業振興ビジョンの中でも、経営者の方と、若者がすぐ辞めちゃうとか、いろいろ話が出てきているかと思うんですが、それはある程度数字として受け止める必要があります。例えば、中年層から若い人を見ると、我慢が足りないとか、根性がなくて、そういった意見もありますけれども、やっぱり若い人からすると、そういう50～60代の者が常識と思っているものはもう常識じゃないというものがあると思います。そういうことも含めて新設問として、退職理由というのを加えさせていただきました。

それと、就職する学生の側へのアンケートということですが、予算の関係とか、時間の関係もありまして、今回は企業の方に聞くという形です。例えば手前どもが別のグループでやっている、学生向けのアンケートで、なぜ前橋に就職しないかとか、就職したんだとか、もしそういうものも反映できるようであれば、参考にしたいとも考えております。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございました。続いて、中島専務、何かありますか？

(中島委員)

少し前から身の丈に合ったIoTやAIの導入によって生産性を上げて、働き方改革を推進しましょうみたいなところって、言葉としていろいろ言っていますけれども、ある程度の規模の企業であればそれは取組可能だと思いますが、やはり小規模事業者、あるいは個人だとですね、そこにやっぱり踏み切るのはなかなか難しいし、小規模事業者の中ではITに長けている方が本当にいるのかということのを少しあぶり出せないかなという気がしております。何かこのアンケートの中で手立てがあったらお願いしたいなと思います。以上です。

(群馬経済研究所)

ありがとうございます。委員からご指摘いただいたことは、アンケートの設問のICT化、産業連携の対応、などの部分で、ある程度、答えがくみ取れてくると思いますので、回答者の意見を活かしていきたいなと思っております。

(橋本委員) 雇用力と稼ぐ力でいうと、私どもは医療に関係していますが、やっぱり働く人が働かなくなっているんですよ。残業したくない。仲間に聞いてみるとね、みんな同じようですよ。この稼ぐ力をというのは人なんですよ。いくらIoT、例えばなんとか言ってもね、ICしか言わなかった総理もいたけれども、やはり人がいなければね、優秀な人材を採用できなければね、何を言っても駄目なんです。

先ほど小規模企業のご意見が出ていましたけども、今僕らが、全ての業種において、やはり今一

番力を入れるのは人の教育だと思うんですね。いろいろな学生とも会って見ていますけれども、目標がちゃんとしている人たちは、かなりやる気があるんですけども、それ以外の人は、あまりやる気がないかな。そこでみんな困って、外国から優秀な人材を、どうしたら雇えるかなとか、みんなそちらに走って困っているわけですね。

ですから、ロボットも何でも使える人、そういう意味ではやっぱりCADやCAMが必要なんですから、CADやCAMを使える人たちを養成できる学校というのは前工大しか前橋はないので、そういうところに力を入れてもらってね、中小企業だけじゃなくて、大企業も喜んで前橋に来たいなというようなことになるためには、やっぱり人の養成に力を入れるようなアンケートも出していただければいいかなと、こう思っております。

常に悩んでいるのは人です。いくらロボットを使えばいいじゃないかと、格好いいことを言っているけど、それでは、CADを使える人がいるのはどのぐらいいるのと、三次元のCADが書ける人ってどのぐらいいるのということです。いないですよ、本当に見ていると。各企業を見ても。だから、やっぱりそういうことに力を入れてもらえればなと思います。

ぜひそういう方向にね、前橋はやっぱりそういう教育をもっと大事にするんだと。製造業とか何とか業種は関係ないですよ。コンピュータを使えなきゃ、何もできないでしょう。そういう人材を養成できるような前橋市になればいいなと。やっぱりビジョンというのは3年かけてやるんですから、ものすごく大事だし、今日はね、今村副学長も来ていますし、ぜひそういう方向で頑張ってもらいたいなと。それは委員長も同じ気持ちだと思います。以上です。

(吉田委員長)

返事はどうですか。今の、いいですか。

(群馬経済研究所)

はい、ありがとうございます。人の養成方法というところだと思いますが、一つは、結局企業に入る前の「学校の段階での教育」というのと、あと、「企業に入ってから教育」という問題があるかと思います。産業振興ビジョンの中でまずできるのは、「企業に入ってから人の教育」の問題という形になるかと思います。ビジョンを出していく中で、例えば新入社員の方を教育する支援の方法等についても委員の方々とご相談していきたいと思っております。

あと、就職する前のお話というのは、例えば小学生とか、中学生とか、かなり小さいうちから前橋市の企業を体験してもらって、その際に、例えばこういう技術が必要だとか、こういうことをやっておくといいよと伝えるとか、そんな工夫した提案も出す必要があるかなと考えております。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございます。続いて吉澤さん、よろしくお願ひします。

(吉澤委員)

はい。先ほどから話を聞いていまして、雇用がどうのとかというよりも、私、東部、宮城、粕川、大胡のほうが中心な商工会でございまして、本当に小企業と零細企業の方ばかりですけど、一番今問題なのが後継者ですかね。後継者でも、みんな、お子さんはいますけど、そのお子さんが結婚していないのです。もう年も40歳、50歳の人が結婚しないので、その子供もいない。子どもがないものですから、会社の機械が古くなっちゃっていても、「私の代で店を閉めればいいのか」なんていうので、全然道具なんかも新しくする意思もない。年寄りで後継者がいないなんていう家は、「この道具が壊れたら、もう辞めるんだ」なんていうのが結構多いです。この親族等に適当な

人がいないので廃業するなんていうのが多くなってくると思いますが、その辺をどうすればというのを、アンケートで聞いてもらえればいいのかな、と思っております。

(吉田委員長)

ぜひ返事をしてください。

(群馬経済研究所)

ありがとうございます。委員のご指摘をいただいた事業承継の関係ですけれども、例えば事業承継の推進とかですね、このアンケートに基づいて、事業承継という問題点がかなり数字で浮かび上がっているということであれば、実際のヒアリングでも当然小規模事業者さんも問題点として挙げてくれると思います。例えばM&Aとかいろいろ言われていますけれども、じゃあそのM&Aをするほどの事業規模でもないということであれば、店じまいの相談にのるという方法も前橋の産業施策になるかと思えます。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございました。続いて、宮崎さん、一つよろしくお願いします。

(宮崎委員)

今回このようなデータを見させていただいてですね、消防設備の仕事をしている会社として、AIですとかIoTが加速してユーザー性が高まっていくといいなどは思っているんですけども、我々のやっている仕事の観点からしますと、前橋市さんですとかの話ではないんですけども、なかなか消防行政との連絡のやりとりですとか、そういったところではかなりまだアナログなところもありまして、もちろん法整備もついてないので、まだまだこちらのほうに期待できるところはないのかなと思うところが、まず感想としてはあります。

それから人材について2点ですね。一つは、アンケートの中では後継者ですとか、あとは一般の従業員での問題点というのを尋ねているところがあると思うんですが、弊社でもそうなんですけれども、同時に幹部社員についても、何かしら問題を抱えている会社があるのではないかなと思います。それこそ、UIJターンに絡めてですね、幹部の方を、例えば都内から引き抜いてくるとかいう時に、第二の人生として前橋を選んでもらうような何か施策とかがあると、会社としての取り組みも行いやすくなっていくのかなと思います。それから、先ほどお話がありましたけれども、小学生に対する企業見学、職業体験というか、そういったものも、これから非常に大事になってくるかと思えます。我々も独自で取り組みたいとは思っていたんですが、どうしても消防設備、我々のような中小の会社が教育のためだけにつくるとなると、何千万円というものがかかってきますので、例えば企業同士のタイアップですとか、それを前橋市さんにバックアップをしていただいて、何かイベントとしてやっていくようなものがあれば、非常によいものになるのかなと。

あとは、今日、せっかく前橋工科大学の今村委員もいらっしゃいますのでお話しますが、建築分野の中で、建築、電気、土木とかそういった学科はあるんですけども、本来というか、消防設備も命と財産を守るという観点では大事なんですけれども、専門とした教育機関がなかなかないので、ぜひそういったところの学科の創設もお願いできればなと思っております。以上です。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございました。これに対して返事はありますか。

(群馬経済研究所)

ご指摘ありがとうございます。やっぱりベテランの方、中堅管理職の方の不足というところも当然あるかと思い、今回新たに質問項目として「御社で不足している人材はどのような方ですか」と、入れてみた次第でございます。

それと、もしかしたら前橋市がいい施策を持っているのに、前橋市の企業の方が実はそれを知らないのではないかというのを心配しまして、今回、前橋市の「産業振興ビジョン」や「産業サポートガイド」に関する設問を追加しました。認知度が低い場合は、これをどうやって普及していくかということから施策を考えなきゃいけないかなと思っています。

また、前橋市の「企業ガイドブック」というのがどういうものか、どこに載っているのかということもわからない方がいらっしゃると思いますので、実際に産業の方々はどう普及させていくかという部分も提案できるかと思ひまして、今回アンケートに設問を設けた次第でございます。

(吉田委員長)

はい、ありがとうございました。全員の方から今意見がいただけましたので、質疑はこの辺で打ち切りたいと思います。その他についてありますか？

(事務局)

なしで大丈夫です。

(吉田委員長)

それでは、(1)、(2)、(3)全て終了しましたので、議事を終了したいと思います。ただ、今まで説明がなかったんですけども、次回の振興ビジョンは、市の考えですと、5年計画ということになる話を聞いていますので、そのつもりでよろしくお願ひしたいと思います。それでは議事を終了します。ありがとうございました。

4 閉会

(木村課長)

ありがとうございました。委員の皆さま方には活発な意見交換、質疑応答にご協力をいただきましてありがとうございます。吉田委員長さんには円滑な議事進行、大変ありがとうございました。

そうすれば、本日の会議はこれで終了となりますが、次回の会議につきましては、11月11日に開催する予定です。次の会議では、先ほどご意見をいただきましたアンケートの調査結果ですとか、経済分析の報告に加えまして、次の産業振興ビジョンの内容に対します具体的なご意見も頂戴する予定です。詳しくにつきましては、あらためてご案内をさせていただきますので、その際はぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、本日の会議、これで終了となります。大変ありがとうございました。